**データが語る強い中小企業 - 地域に根差し高収益　 (日経ビジネス 2013.12.23)**

2002年から2011年までの粗付加価値額（純付加価値額＋減価償却費）の成長力

 ドイツ15％成長、同時期、日本、仏、英、イスペインはずべてマイナス成長。

注目すべきは、ドイツの中小企業の伸び幅が大企業と遜色ないという点。

　　　〇　中堅企業の層の厚さ

　　　〇　地域的な裾野の広がり

　　　〇　充実した職業訓練制度

ドイツでは、もうかっている小企業（１～20人）

　　小企業は、ほかのユーロ圏の2倍以上の収益性。

　中企業数　(従業員数20～249)の比率は、他のユーロ圏の2倍以上。

　地域分散で雇用確保
　　　　パリやミラノを中心に一極集中するフランス、イタリアと異なり、地域に分散。

　こうした地域経済を支えるのが、Mittelstand (中小企業）
   「職業訓練制度」　dual system 職業訓練と職業教育を同時に行う。

　訓練生は週3～4日企業で職業を受けながら、残りの1～２日は職業学校で技能を学習。

ドイツの大学進学率40%は他先進国に比し低いが、進まない学生の半数以上が何らかの

職業訓練を受けている。スキルを保持する労働者を地元につなぎとめることに成功。

<日本の逆が産む革新＞

　　系列より、自主独立。　トヨタより特許が多いボッシュ系列に頼れない以上、未来技術

の先行開発に注力。

　ボッシュのデイーゼルシステム事業部長マルクス・ハイン氏、「ドイツの自動車メーカーは、部品メーカーを対等の立場と考え、提案を受け入れてきた。この考えが世界で主流となりつつある。」と話す。

　ＶＷのモジュラー型余力で、未来開発

**SCCCとの関係　（Kawada）**　　対等関係の象徴が、ＳＣＣＣ値。減少するほど、対等の協業関係が進化

　　検収後1か月に支払われる月次決済慣習を、IoTで翌日決済にどこまで近づけるか

21世紀の流れ創りとスマート資本主義、「下請け」関係から「協業」関係への脱皮の

焦点指標」である。